

刑法総論Ⅱ

科目ナンバリング CRL-102

必修 2単位

堀田 晶子

1. 授業の概要(ねらい)

刑法は、犯罪と刑罰に関するルールです。1年次に学修する刑法総論では、すべての犯罪に共通する要素(犯罪の成立要件)を分析し、「およそ犯罪とは何か」を考えます。一見、抽象的に見える犯罪論も、具体的な事例を用いてイメージすることで、確かな理解へと繋がります。1年間を通じて、刑法総論の主要な論点と向き合い、法解釈の技術を学ぶとともに、犯罪論を体系的に理解する法的思考力を身につけます。

2. 授業の到達目標

①刑法総論の主要な論点について、判例の立場や学説の対立を意識しながら、具体的に説明できること。

②法解釈の技術を学び、犯罪論を体系的に理解する法的思考力を身につけること。

3. 成績評価の方法および基準

基本的には試験によって評価する。評価配分の目安は、試験90%、授業への貢献度10%である。授業への貢献度は、勉学への意欲や授業態度等によって総合的に判断する。

4. 教科書・参考文献

教科書

以下の教科書をお勧めします。教科書には相性があるので、この中から自分に合ったものを選んでください。

大塚裕史・十河太郎他〔著〕『基本刑法Ⅰ・総論』〔第3版〕(2019) 日本評論社

西田典之〔著〕・橋爪隆〔補訂〕『刑法総論』〔第3版〕(2019) 弘文堂

井田良〔著〕『講義刑法学・総論』〔第2版〕(2018) 有斐閣

参考文献

佐伯仁志・橋爪隆〔編〕『刑法判例百選』〔第8版〕(2020) 有斐閣

井田良〔著〕『基礎から学ぶ刑事法』〔第6版〕(2017) 有斐閣

5. 準備学修の内容

特に復習に力を入れてください。毎回の授業で扱ったテーマについて、関連する条文を必ず確認し、レジュメやノートを読み返しながらか、復習しましょう。勉強すればするほど疑問がわいてきます。疑問点が出てきたら、テキストを繰り返し読みながら、まずは自分で考えてみましょう。図書館を大いに活用し、時には友人と議論してみてください。それでもわからない場合は、教員に質問してください。

6. その他履修上の注意事項

授業をよく聞いて、その都度レジュメに書き込むか、ノートを取るようにしてください。自分で書いて、理解することが大切です。授業の内容が聞き取れなかった場合は、あやふやのままにせず、すぐに教員に確認してください。

1年生の間に刑法総論をしっかり学び、2年生からの刑法各論の理解に繋がしましょう。

7. 授業内容

- 【第1回】 オリエンテーションー春期の復習ー
- 【第2回】 違法性とは何か／行為無価値論と結果無価値論／違法性阻却事由ー正当行為ー
- 【第3回】 被害者の承諾／安楽死・尊厳死
- 【第4回】 正当防衛その1
- 【第5回】 正当防衛その2
- 【第6回】 過剰防衛
- 【第7回】 緊急避難
- 【第8回】 責任とは何か／責任能力／原因において自由な行為
- 【第9回】 責任故意／違法性の意識
- 【第10回】 誤想防衛・誤想過剰防衛
- 【第11回】 未遂犯・不能犯
- 【第12回】 中止犯
- 【第13回】 共犯論その1
- 【第14回】 共犯論その2
- 【第15回】 秋期のまとめと試験